

「ベトナム赤十字への贈呈式報告



2017年9月27日、ベトナム首都のハノイから車で2時間程度の距離にあるベトナム北部のフート省ベトトリ市のベトナム赤十字フート省支部で170台の車椅子の贈呈式を開催しました。当会から小田 謙介 理事、桑山 昭 理事とベトナム代表者のグエン・ヒュー・ロン氏が出席しました。



ベトナム赤十字フート省支部がある建物



我々が会場に入った時はすでに車椅子が並べられていました。代表の子どももスタンバイ。



会議冒頭で自己紹介と簡単な挨拶をする小田理事とベトナム赤十字本部及びフート支部の幹部。

写真左端：ベトナム赤十字フート支部代表のブイ・ヴァン・ファン氏

写真 2 人目：ベトナム赤十字本部の理事でオレンジ財団の幹部であるダン・ミン・ティエン氏



フート省支部の司会で贈呈式が始まりました。



冒頭、ベトナム赤十字本部の代表でありオレンジ財団の幹部メンバーでもあるダン・ミン・チェン氏が挨拶を行いました。その発言内容は、以下の通り。

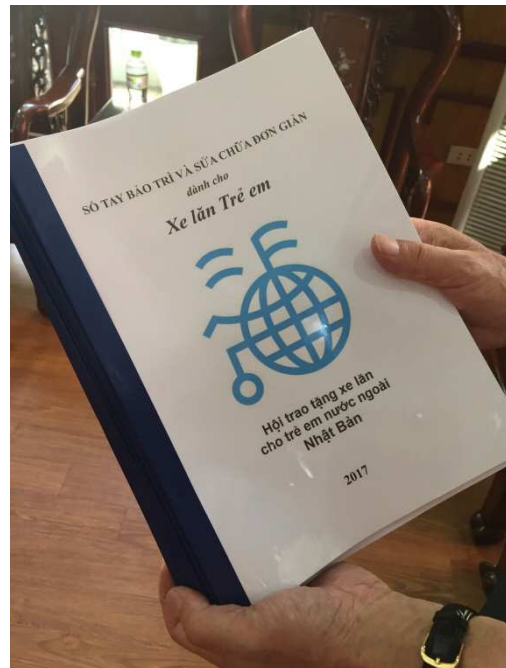
日本の熱心なボランティア NPO 法人「海外に子ども用車椅子を送る会」は 2006 年からベトナムの赤十字を通して障害のある子供達へのサポートしてくれています。そのことに対して心より御礼を申し上げます。

同会は、多くの国々に対してたくさんの車椅子を送っているわけですが、その中でベトナムへの贈呈台数が 2 番になるということは、誠にありがたいことです。(この時点では、昨年のデータしかベトナムメンバーは知らない)

フート省の子どもたちに車椅子を送るのは、今回が初めてですが、今後もフート省の子どもたちに少しでも多くの車椅子

を送りたいので、ご協力をよろしくお願いいたします。

そして、この活動をますます拡大させていきたいと思えます。同会のボランティアの皆様からご指示や、連絡等いただきながら進めていきますので、ご協力をよろしくお願いいたします。最後になりますが、心より感謝申し上げます。



当会からは小田理事が挨拶を行いました。写真左上は修理マニュアルを掲げながら挨拶をする小田理事。写真右上は、その車椅子 1 台に 1 冊の修理マニュアル。

以下は、小田理事の発言要旨。

- ・我々は 23 か国 6,500 台の子ども用車椅子を届けているが、ベトナムがその回数が 8 回、台数が 1,185 台と最大の贈呈国であり、我々の活動にとって重要な国である。
- ・これからも継続してベトナムに送り続けることを考えている。
- ・ベトナムでは多くの子どもが車椅子を必要としている。
- ・ベトナム赤十字がリーダーシップを持って車椅子の配布や管理を適切に実行してくれる。
- ・日本政府／外務省も我々の活動を資金面で支援してくれている。
- ・日本に住むベトナム人が自分たちの国の子どもに車椅子を送るために車椅子を整備してくれている。
- ・日本の障害児の家族は、車椅子がベトナムの子どもたちの役に立つことを非常に喜んでいる。
日本では車椅子を家族の一員の様に大切に使っている。
- ・ベトナムの皆さんも家族が一人増えたと思って車椅子を大切に、そして十分に活用してほしい。
- ・車椅子が壊れたらすぐに今回の修理マニュアルを参考にして修理をしてほしい。
- ・部品がなければ赤十字を通じて要請してほしい。日本から送るようにする。

パワーポイントで日本での活動の紹介

桑山理事が「車椅子がどのような過程で、どのような人たちの協力を得て今回ベトナムに届けられたか」を紹介した。当会のベトナム代表のグエン・ヒュー・ロン氏がベトナム語に通訳し、出席者の理解に努めた。



パワーポイントで日本国内での活動を紹介する桑山理事。



聞き入る出席者

最後のお礼の挨拶をするベトナム赤十字フート支部代表のブイ・ヴァン・ファン氏



日本での車椅子活動をご紹介いただき、誠にありがとうございます。皆様の活動を理解することができました。会が発足してから10年とのことですが、世界の23ヶ国に子ども用車椅子を届け、そしてベトナムには1,185台を送ってくれました。心より御礼を申し上げます。

2017年にはベトナムに170台を送ってもらい、今回はフート省に足を運んで頂き誠にありがとうございます。

フート省について簡単な情報を提供させて頂きたいと思えます。ベトナムの地図でハノイから西北に位置し、人口は130万人、面積3,500m²、データによると30,000人の障害児がいるといわれています。

本日、丁寧に梱包された車椅子の様子を拝見して、本当に心から感動しました。送ってもらった車椅子は中古ですが、まだまだ使用可能です。また、今日の小田理事の説明を聞いて、大切に使いたいと思えます。

今回、車椅子を渡すために9人の障害児に連絡しましたが、100キロメートル以上遠いところに住んでいるために交通が不便で、来ることができませんでした。来られない子どもたちは残念ですが、日本からのボランティアの皆さんの熱心さは肌で感じる事ができると思えます。また、その子どもたちの親もそれを感じるでしょう。

子どもたちが喜びを感じるのを見る事で、車椅子が彼らにとってとても意味があると心から感じます。もう一度、皆様に感謝したいと思います。

この贈呈式の後、4人の子供に車椅子を配布するために約30kmの道のりを日本の皆さんと一緒に車で移動します。子どもたちと触れ合う事で、日本の皆さんは障害児たちの苦勞を見て、親たちの気持ちを理解することができると思えます。

今回、フート省には170台車椅子を送っていただき、また、4人の障害児への配布に同行して下さることに感謝申し上げます。車椅子を大切に使うことを約束し、これまで以上にベトナムと日本の良い関係の構築を目指します。

小田健介様、皆様、どうもありがとうございました。



最後に壇上で車椅子とマニュアルを家族に手渡し記念撮影。



(写真左) 贈呈式の後、各地区の責任者がどの車椅子をどこに配布するかの割り振りを行っていた。



(写真右) 早速、車椅子を積み込み、配布のために出かける。

家庭訪問

家庭訪問-1: Dao Dai Duong (ダオ ダイ デュオン)、5歳



おじいさんが、ベトナム戦争に従軍し枯葉剤を浴びている。子どもは障害が無かったが、孫に障害が出たとのこと。脳性麻痺である。ダオ君にはあまり表情が現われない。体を自ら動かすこともあまりできないが、おばあさんは車椅子が来たことを喜んでいた。



(写真左) 日本から持って行った折り紙などを子どもに持たせるお母さん。



(写真右) 家族と地区の赤十字の人と思われる。

家庭訪問－２：Pham Quang Huy（パン クアン フィ）、11歳



11歳にしては体が小さい。「先天性欠損症」とのこと。この子も枯葉剤の影響での障害児。写真右のオレンジの服を着ているのが34歳のお母さん。お母さんも障害があるとのこと。

写真右のしゃがんでお菓子や折り紙を子どもに持たせているのがフート支部の代表者であるブイ・ヴァン・ファン氏。彼は、今回の活動の全てにおいて情熱をもって一生懸命に取り組んでいるのが側にいて伝わってきた。贈呈式の締め挨拶にも力がこもっており、家庭訪問でも自らが子どもを抱き上げて車椅子に乗せるなどをしていた。

この子は11歳で成長が十分ではない。このように体が成長しないまま成人する例は多いとのこと。当会は車椅子の贈呈基準を未成年と定めているが、子ども用車椅子でないと合わない成人の障害者がいる場合があり、子ども用車椅子を必要としながら、その人たちには当会からの車椅子は届かないことになる。



子どもの家はかなり立派な建物。

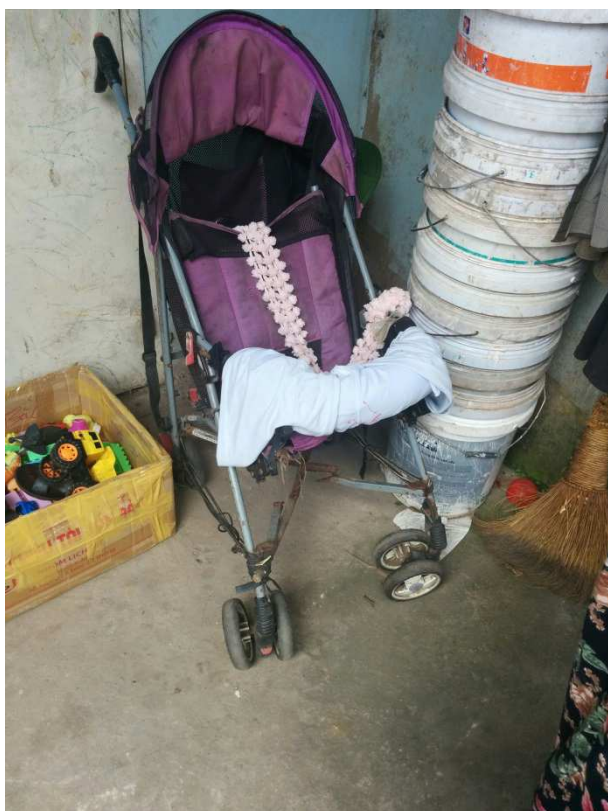


自ら子どもを抱っこする支部長

家庭訪問－ 3 : Nguyen Bao yen (グエン バオ イエン)、6 歳



脳性麻痺の障害。表情はあまり表れない。黄色の服がお母さん。赤い服は赤十字のスタッフ。

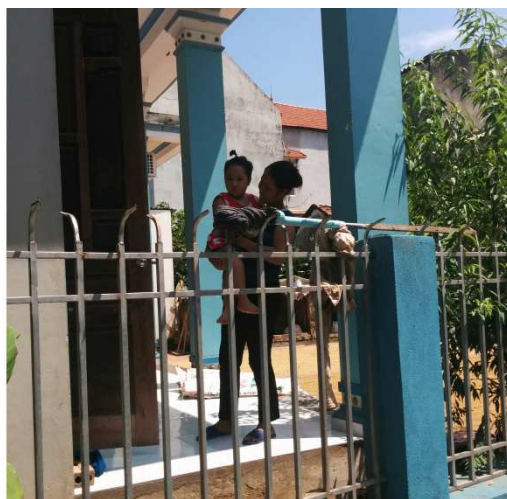


(写真左) これまで使用していたバギー



(写真右) 自宅のある前の通り

家庭訪問－４：Cao Ky Duyen（カオ キ デュエン）ちゃん、３歳半



手やひざの関節が動かない障害がある女の子。我々が帰るときにお母さんに抱っこされて玄関口から見送ってくれた。



この子の家はかなり裕福な感じがした。家の前の庭には収穫したコメが天日干しされていた。

ベトナム赤十字幹部との打ち合わせ



(写真左) 9月26日赤十字での会議

以前担当していたロン・ホイ・チュイ氏が国際部の部長代行で復帰。今後も継続して車椅子を届けることと、毎年ではなく1.5～2年に一度の贈呈を予定する。その場合の台数は90台でも170台でも当会の状況で決めることを合意。

(写真右) ベトナム赤十字本部が入るハノイ市内の建物



ロン・ホイ・チュイ氏と意見交換する小田理事



今回、ロンさんが翻訳・印刷した300部のベトナム語整備マニュアル



ベトナム赤十字本部での打ち合わせでいろいろお世話になったドン・チー・マイさん（右端）。

マイさんは、贈呈式開催に当たって日程調整からその他の様々な準備をしてくれ、贈呈式後の家庭訪問にも同行し、インタビューに協力してくれた。

（所感）

ベトナム赤十字の組織力はやはり凄い。特に現地の支部の責任者を始め多くのスタッフが非常に熱心に活動を支援してくれているのが印象的だった。この活動の継続に不可欠な組織だと思う。

枯葉剤の存在は知っていたが、一軒目の家庭訪問で枯葉剤による隔世遺伝の障害児の家庭だったのは驚きだった。いきなり枯葉剤の影響を目の当たりにするとは思っていなかった。ベトナム戦争の傷跡として残っていることを実感した。また、枯葉剤被害者の支援をしているベトナム政府とベトナム赤十字が共同で設立したオレンジ財団の存在は、当会の活動推進にとって最も重要な要素である。

既に 1000 台以上の車椅子をベトナムに提供してきたが、まだまだ不足している現実を今回の訪問でも実感した。赤十字からも継続した寄贈を要望された。自国の現状をよく理解している日本在住のベトナム人が例会活動に参加してくれていることが大きな助けになっているのは事実であり、その活動に報いるためにもベトナムへの贈呈は継続していかなければならない。

以上